

令和元年度 第2回指導主事学校訪問 授業研修会 理科協議会記録

日 時：令和元年 10 月 24 日（木） 15:15～15:55

場 所：選択 A 教室

司 会：沢井 郁

記録者：浅利 絵里子

1 指導・助言の先生の紹介・・・総合教育センター指導主事 佐藤栄幸先生（化学）

2 授業者から（授業者：山城崇（化学））

普段通りの授業であった。計算などの基礎学力がついてない面が見られたが、クラスの生徒は、明るく元気な生徒で仲が良い。

3 協議内容

<グループA>（一ノ関）

成果：

- ①発問発表のさせ方、生徒の発言のさせ方を具体的に指示し、根拠のある説明をさせようとしていた。この活動は、授業以外の場でも生きてくるのではないか。
- ②生徒に考えさせる場面があり、教えあうことによって学びを深め合うことができていた。グループの人と話し合うところでも、根拠をもって説明できていた。
- ③プリントの最後の評価（振り返り）項目で、教えあうことは大事だと示していた。

課題：

- ①できる生徒へは、 $+\alpha$ の指導をした方がより良かったのではないか。
- ②板書のスピードが速くついていけない生徒がいた。
- ③定義があいまいな部分があった。

<グループB>（白沢）

成果：

- ①的確な指示とアドバイスで、生徒が授業内で何をすべきかが明確であった。発言する場が多かった。
- ②学びあいのための良い雰囲気づくりができていた。回答した生徒に「ありがとう」という声かけをしたり、わからない生徒も否定せずに受け入れている。

4 指導助言（佐藤栄幸指導主事より）

①導入部

過去の学習内容を意識した授業実践であった。過去の学びとつなげているのが感じられた。これは、深い学びを実現するうえでとても重要である。振り返りは、必ずしも最後で

ある必要はない。適宜、授業内で振り返りをしてほしい。

②授業中（展開部）

「なぜ」という発問が多く、頭を使う場面が多かったと思う。自分で考える時間を作って、わからない生徒にもできるだけヒントを与えて答えさせるようにしていた。

③演習（生徒間で教え合う）

わかっている生徒にとっては、アウトプットが確実な定着になった。

わからない生徒、複数に違う表現で聞くことは学びにつながる。

④その他

関係性を式から見出す流れがよかった。新学習指導要領でも、見出して表現することに重点が置かれている。改訂されている部分の一つである。

定義の話があったが、インプット、アウトプットの時間をバランスよく入れて、今後も学び合いの機会を設けてほしい。本来の流れでは、複数の問題を解くという流れであったようなので学び合いの機会もまた違ったのだろう。

⑤一般的に存在する効果的な手法の例

- ・グループ毎に違う問題を選択させて、クラス全体に答えさせる。
- ・できる生徒には、たくさん問題を解かせる。
- ・ジグソー法。グループ内のAさんは1、Bさんは2、という具合に役割をふって、最後に持ち寄る方法。